

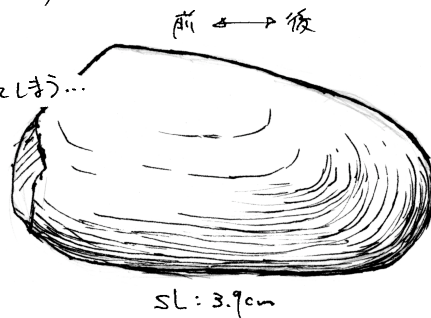
エスチュアリ

Estuary 025

～いしかり砂丘の風資料館だより～



望来の貝化石は、
まわりの石代に比べて硬いので
きれいに取り除く(クリーニング)
が難しい。
→すぐ化石本体を磨いてしまう...



瓜のような形なので
「...ウリガイ」というらしい。

ワタゾコウリガイ (化石)

Calymene pacifica

二枚貝綱マルスタレガイ目
オトヒメハマグリ科

殻長 3～4 cm
採集地 石狩市厚田区望来 (望来層)
時代 新第三紀中新世
(800万年前～650万年前)

深海の熱水噴出孔には
シロウリガイやチューブワーム
が群生している。



展示資料の ひみつ リターンズ

800万年前のワタゾコウリガイの化石。石狩市の望来 (もうらい) で採取されたものです。一見地味な二枚貝の化石ですが、実はこの貝、ただものではありません。

1977年、ガラパゴス諸島沖。アメリカの深海潜水調査艇アルビン号は、太陽光のまったく届かない、死の世界と考えられていた暗黒の深海底で、生物の大群集を発見しました。海底下から湧き出す熱水に含まれる物質をエネルギーとして生きている、チューブワームやシロウリガイなどです。これは生物観を塗り替える大発見でした。

それまで、陸でも海でも地球上のすべての生物は、太陽エネルギーに頼って生きている (植物が光合成をする、動物がその植物を食べる) と考えられてきました。ところがシロウリガイたちには太陽は必要ありません。彼らは「化学合成群集」と呼ばれ、地球のエネルギーといえる熱水中の硫化水素を酸化することによって作られる有機物で生きています。いわば「暗黒の生物」。もし地球外に生命がいるとしたら、こんな生物群集が有力候補だと考えられています。

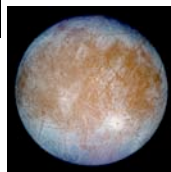
ワタゾコウリガイは、そのシロウリガイの仲間。800万年前、深い海の底だった望来には、地上からは想像もつかない、もうひとつの世界が広がっていたようです。◆

(志賀健司 しがけんじ)

海の歴史

エウロパの海

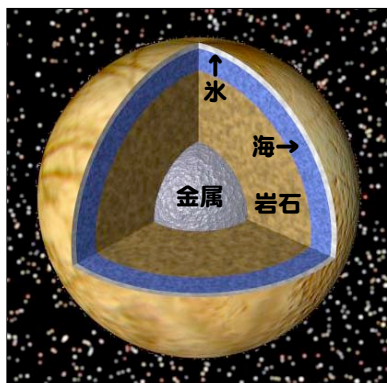
木星の月エウロパ



太陽系の中で水の海を持つ星。地球以外にも、30～40億年前の火星にも海があったらしい、と最近では考えられています。しかもうひとつ、海があるといわれている星があるのです。それも火星のような大昔ではなく、現在の話。それは、木星の月のひとつ、エウロパです。

木星の第2衛星エウロパは、130個近く確認されている太陽系の衛星の中で6番目に大きく、地球の月よりちょっと小さいくらい。主に水の氷と岩石でできた「氷衛星」で、地表は厚さ10kmの水で覆われています。ところが各種の観測から、その氷の下に、どうやら海が広がっているらしいことがわかってきました。その水深は推定50～100km、地球の海の10～20倍の深さです。

太陽から遠く離れたエウロパでは、太陽エネルギーは地球が受け取る量の4%しか届きません。もちろん氷点下、すべての水は凍りつく世界。しかしエウロパの内部



エウロパの内部。氷の下の海は、深さ50～100kmと考えられています。(NASAホームページより)

では、木星やほかの衛星の重力の影響（潮汐力）による摩擦熱で、火山活動が起きているらしいのです。その熱によって厚い氷の内側が融かされ、海ができたと考えられています。

エウロパの氷の下に広がる海。実は現在、太陽系で地球以外に生命がいるとしたら、その第1候補はここなのです。海と、その海底での火山活動。40億年前の地球で最初の生命が生まれたのも、そんな環境でした。エウロパの海底には熱水が湧き出し、その中に含まれる物質を利用して有機物を作り出す生物（化学合成群集）がいるのではないか、とされています。◆

(志賀健司 しがけんじ)

風と資料館

吹く風の冷たい季節になってきました。日中と夕方
の温度差には時々、びっくりさせられます。資料
館の周りには建物が多く多くないせいか、風の影
響を直接、受けているように思います。
けれどこの風もまた石狩の特徴のひとつ。資料館
の名前にも使われているくらいなので、文句を言っ
ては罰が当たるかもしれません。
これから冬に向かってだんだんと寒くなり、外に
出るのも億劫になりがちですが、お散歩の合間に、
もしくは気分転換がてら、ちょっと足をのばして
「いしかり砂丘の風資料館」まで来ていただけたな
ら、幸いです。◆

(原田祐希 はらだゆき)

石狩大学博物学科 第1期生修了！

「イチからイシカリ！」をコンセプトに開催した、石狩の自然と歴史の入門講座「石狩大学博物学科」。石狩動植物学、石狩歴史学など、6月より毎月1科目の講義を行い、9月で全4科目を終了しました。

今年から始めた講座なので、受講者が少なかったらどうしよう、と非常に不安でしたが、幸い、毎回会場の席はほぼ埋まりました。受講者アンケートでも「おもしろかった」「もっと続きを聞きたい」という声が非常に多く、ニーズの高い内容であることを確信。

来年はまだ未定ですが、ご要望が多かった「博物学科専門課程」を開講しようかな？



砂丘の風資料館と海浜植物保護センターの4人の学芸員が講師を務めました。

秋～冬の講座・展示

野外講座

石狩ビーチコーマーズ 秋の漂着物

夏が終わり、北風が強くなってくると、ビーチコーミング（漂着物の観察・採集）の季節です！ 漂着物をととして海の環境・文化に思いをめぐらせましょう。今年もアオイガイはやってくるのか？

- 日時 10月22日（日）9:00～12:30
- 場所 砂丘の風資料館～石狩浜
- 対象 小学4年生以上（小学生は保護者同伴で）
- 定員 20人（先着順）
- 持ち物 ビニール袋、長靴、タオル、帽子、防寒着
- 費用 無料
- 申込 10/7（土）～10/20（金）の間に電話で資料館へ

10月
受付

体験講座

マイクロ化石の標本をつくる

珪藻や有孔虫など、マイクロサイズのプランクトンの化石を「微化石」といいます。沼や海の泥、地層の中から、目に見えないくらいの微化石を取り出し、顕微鏡で観察します。

（詳細は変更になることもあります。資料館ホームページ、石狩市広報11月号をご覧ください。）

- 日時 11月25日（土）13:00～16:00
- 場所 いしかり砂丘の風資料館
- 対象 小学5年生以上（大人も可）
- 定員 10人（先着順）
- 費用 300円（材料費）
- 申込 11/5（日）～11/22（水）の間に電話で資料館へ

11月
受付

テーマ展

石狩浜の名もなき沼の生きものたち

石狩浜の一角にある小さな沼。そこに見られる多様な水生動植物を紹介し、水辺の自然の保全について考えます。

（石狩浜海浜植物保護センター、石狩市民図書館、札幌市博物館活動センターを巡回展示してきたものです。）

- 期間 10月21日（土）～11月中旬
- 場所 砂丘の風資料館 市民交流ひろば

10月
開始

テーマ展

2006年のコレクション

12月
開始

今年も、大勢の方からいろいろな資料や標本を寄贈していただきました。感謝の気持ちを込めて、ご紹介します。

（詳細は資料館ホームページ、石狩市広報12月号で。）

- 期間 12月～'07年3月
- 場所 砂丘の風資料館 市民交流ひろば

ようつこ、 未来の学芸員さん

資料館には、市内の各小学校から社会科見学・現地学習などでたくさん生徒さんたちが来てくれます。学芸員より館内での注意事項を聞いた後、展示物について解説を受けます。

以前来たことのある子も初めての子も、専門家の話に興味津々です。触れる展示物は初めのうちはそっと、慣れてくると感触を味わうかのように、ケースの中に入っているものには顔を近づけて食い入るように見ています。受付にある“サケをくわえるクマ”の折り紙はお土産（？）として大人気。帰りの挨拶を交わすと見学終了です。

でも、その中の何人かの子は、家族の方と一緒に再度来館してくれます。そして、展示物について一生懸命解説するお子さんと熱心に耳を傾けるご家族は、とても微笑ましく嬉しく思う光景です。あの日の学芸員は、子供たちの心の中にどんな風に写ったのでしょうか。

ようこそ、未来の学芸員さんたち。一緒に資料館が未来へ繋がっていくようにしていけたらいいね。◆

（倉雅子 くらまさこ）

八田美津さんの人形展示

テーマ展「濃昼山道をあるく」にかわって、浜益区川下の八田美津さんの人形展が始まっています。

資料館で人形展というのもちょっと変わった催しですが、これには理由があります。実はこの人形展は先日（9月4～8日）市役所ロビーで行われていたものです。ロビー展が始まる前から興味がありましたが実際に見たら、昭和20年代の浜益村の風景を実に生き生きと再現してあり、当時を知るための材料としては最適だと思ったからです。さらに人形に添えられていた解説が「浜益言葉」で、懐かしい響きをもって普通の解説以上の効果を出しています。今回は、数ある人形の中から浜益の基幹産業だったニシン漁や農家の様子を再現した人形を中心に展示させていただきました。八田さんは、かつて演劇や浜益の昔話の紙芝居や絵本もお仲間と作ったことがあり、今もこの活動を継続されているそうです。こうした経験が

人形制作に生かされているようです。

資料館は歴史や資料を伝え残すことが一つの役目ですが、写真や文書でなくさまざま媒体を使ってよりわかりやすい展示を工夫するべきだと思います。今回は試みに八田さんの人形を使わせていただきましたが、見学者にはことのほか好評です。今後もこうした試みを行って、わかりやすく親しみのある資料館にしていきたいと思っています。

また、10月から、資料館横の緑地から公共駐車場の一部で「市指定文化財・旧長野商店」の復元工事が始まります。今年は旧中島商店の土蔵が本町から消えて石狩の明治がなくなってしまいましたが、旧長野商店は明治の石狩を伝える貴重な建物となります。オープンは来年5月ごろを予定していますので、お楽しみに。◆

（石橋孝夫 いしばしたかお）



■最近の「いしかり博物誌」（市広報に連載中）

- ☞第79回：琥珀の砂（8月号）
- ☞第80回：親方が撮った漁場風景（9月号）
- ☞第81回：不思議なお札（10月号）

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp> →いしかり博物誌

編集後記

講座や記事など、教育普及活動のときに必ず意識していることがあります。そのひとつは、自分の周囲の身近な地域と地球規模の現象とは関係がある、ということ。ここに山があるのは地球表面を覆うプレートの運動のため、とか、この平野ができたのは極地の氷の増減が原因、などなど。石狩を通して地球を見てほしい、地球を背景とした石狩もあります。今号の1～2頁の記事、あわせて読むと石狩と、地球どこか宇宙との関係がわかりますね？(K)

エスチュアリ No.25

いしかり砂丘の風資料館

開館時間 午前9時30分～午後5時00分
休館日 毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始
入館料 200円（中学生以下は無料）、団体料金160円（15名以上）
交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、「石狩温泉」下車、徒歩1分（石狩温泉「番屋の湯」となり）

2006年10月10日 発行

いしかり砂丘の風資料館

〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

TEL/FAX: 0133-62-3711

bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>